

梅花流創立記念奉讃御和讃

一、早春にさきがけ 咲く梅を

佛のおしえ そのままと

詠いきたりて 幾年か

今日を迎えし うれしさよ

この曲は、平成十四年に『梅花流創立五十周年記念奉讃御和讃』として記念大会でお唱えされました。

宮城県栗原市志波姫の長興寺梅花講、伊藤定子さん（当時一級教範）の作詞です。公募した一四三作品のなかから選ばれました。

創立六十周年の際に、永く歌い継がれるようにと「うごじゅうねん」の歌詞を「いくとせか」に変え、タイトルも変更してお唱えされています。

伊藤さんは、平成十五年に正詠教範に合格し、詠道を全うしました。すでに逝去されましたが、梅花流への思いはこうして今に伝えられています。

二、永き栄えを 祈りては

唱えまつりし 梅花流

鈴鉦もすずやか ひびくなか

三帰の心 深まりぬ

梅花流七十年の歩み

昭和二六年……「密厳流」を手本とした曹洞宗の詠讃歌の流名を「梅花流」と決定

昭和二七年……高祖大師七百回大遠忌を契機に「梅花流」が創立

昭和二八年……梅花流オリジナル曲『三宝御和讃』『無常御和讃』発表

昭和三十年……「梅花符」を発表

昭和四十年……詠道課設立

昭和四二年……「お誓い」を制定

昭和四五年……梅花服が誕生

昭和四七年……梅花流創立二十周年記念奉讃大会を日本武道館で開催

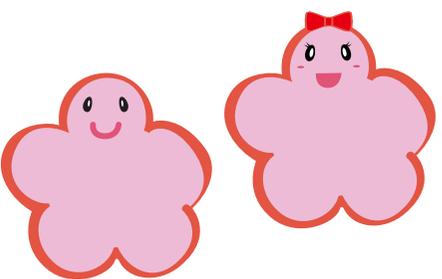
昭和五六年……梅花新聞『香里』創刊

平成十四年……『梅花流創立五十周年記念奉讃御和讃』披露

平成十八年……『まごころに生きる』発表

平成二一年……「ばいかくん」デビュー

令和四年……梅花流創立七十周年



梅花流創立記念奉讃御和讃

ほうえつ
法悦に満ちて

拍速四五位

(一) ^(頭) はるにさきがけ ^(衆) さくうめを
 (二) ながきさかえをいのりては

ほとけのおーしえ そのままと
 とーなえまつりし ばいかりゅうー

うーたいきたりて いくとせか
 かーねもすすずやか ひびくなか

きょう^(オ)ーをーむかえし うれしさよ
 さんきのこーころ ふかまりぬ